

## 桜島の火山活動解説資料（平成 23 年 2 月）

福岡管区気象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方気象台

昭和火口では、1月中旬から爆発的噴火<sup>1)</sup>を含む噴火<sup>2)</sup>の回数が増加しており、桜島の噴火活動は活発な状態で経過しました。

今後、引き続き活発な噴火活動が継続する可能性がありますので、火山活動の推移に注意する必要があります。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

平成 22 年 10 月 13 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○ 2 月の活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図 2～4、表 1）

昭和火口では、爆発的噴火を含む噴火が 1 月中旬から増加し、活発な状態で経過しました。噴火が 142 回（1 月：102 回）発生し、そのうち爆発的噴火は 108 回（1 月：88 回）でした。これらの噴火に伴い、最も遠くまで飛散した大きな噴石は 4 合目（昭和火口から 800m～1,300m）まで達しました。19 日 19 時 08 分の爆発的噴火に伴って火砕流が火口から南東へ約 500m 流下しました。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映<sup>3)</sup>を時々観測しました。

南岳山頂火口では、7 日の 08 時 05 分と 09 時 16 分に爆発的噴火が発生し、大きな噴石が 8 合目（南岳山頂火口から 500m～700m）まで達しました。南岳山頂火口での噴火は、2009 年 10 月 3 日以来です。

#### ・地震や微動の発生状況（図 5、図 6、表 2）

火山性地震は少ない状態で経過しました。月回数は 510 回（1 月：585 回）で前月と比べて変化はありませんでした。震源は南岳直下の深さ約 2～4 km に分布しました。

噴火に伴う火山性微動が発生しており、月回数は 445 回（1 月：537 回）、継続時間の月合計は 36 時間 19 分（1 月：45 時間 00 分）とやや減少しました。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 3 月分）は平成 23 年 4 月 8 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所、九州地方整備局大隅河川国道事務所、鹿児島県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。

・火山ガスの状況（図 4）

9 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり 300 トン（1 月：800～1,700 トン）と少ない状態でした。

・地殻変動の状況（図 7～9）

GPS 連続観測では、桜島島内で火山活動に起因する特段の変化はありませんでした。有村観測坑道の水管傾斜計では、2010 年 7 月頃からみられた山体の沈降傾向は 2010 年 11 月下旬以降停滞していましたが、2 月上旬から再び火山灰の放出量が多くなり沈降傾向となっています。

また、国土地理院の GPS による地殻変動観測では、始良(あいら)カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられます。

・降灰の状況（図 10、図 11、表 3）

鹿児島地方気象台での観測<sup>4)</sup>では、月合計 131g/m<sup>2</sup>（降灰日数 10 日）の降灰を観測しました。その内 19 日の降灰量 3 g/m<sup>2</sup> は新燃岳からの降灰と思われます。

鹿児島県の降灰量観測データをもとに解析した 1 月の降灰量は 36 万トンで、2010 年 12 月（31 万トン）よりやや増加しました。

- 1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または気象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。
- 2) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは噴煙量が中量以上（概ね噴煙の高さが 1,000 m 以上）の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。また、基準に達しない噴火は、ごく小規模な噴火としています。
- 3) 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。
- 4) 鹿児島地方気象台（南岳の西南西、約 11km）における前日 09 時～当日 09 時に降った 1 m<sup>2</sup>あたりの降灰量です。

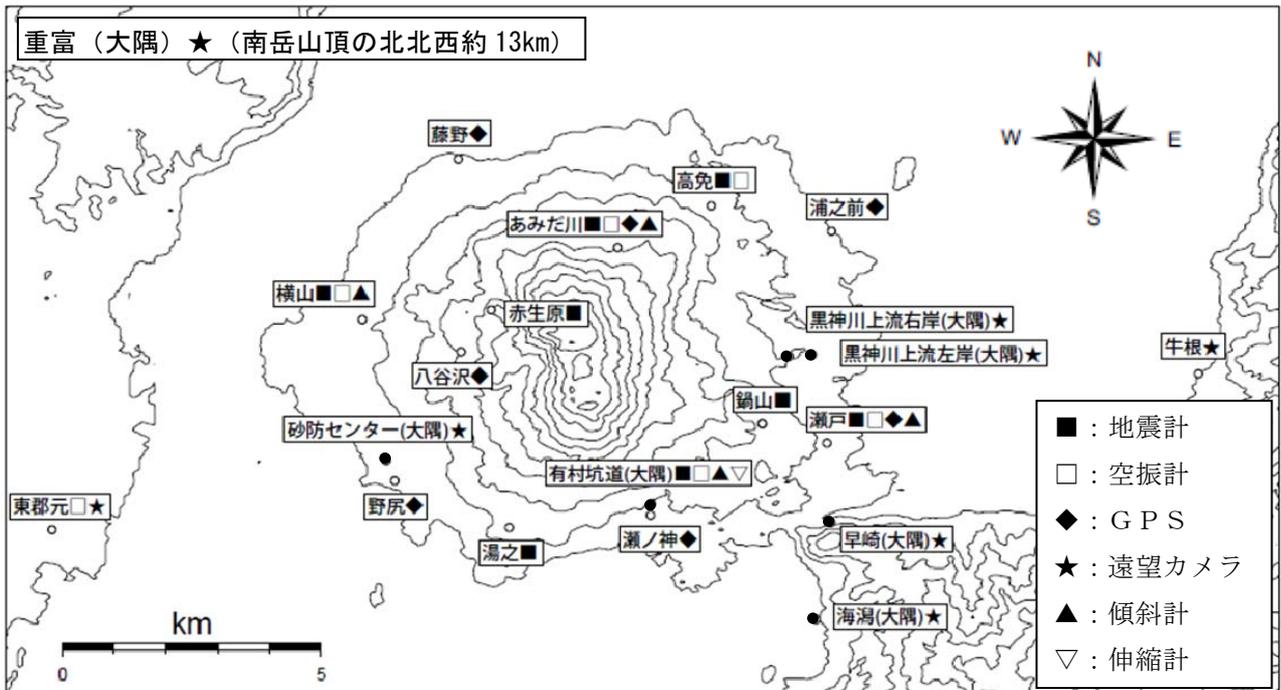


図 1 桜島 観測点配置図

（大隅）：大隅河川国道事務所設置

（小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。）



図2 桜島 東郡元カメラからみた昭和火口の爆発的噴火（2011年2月26日13時39分）

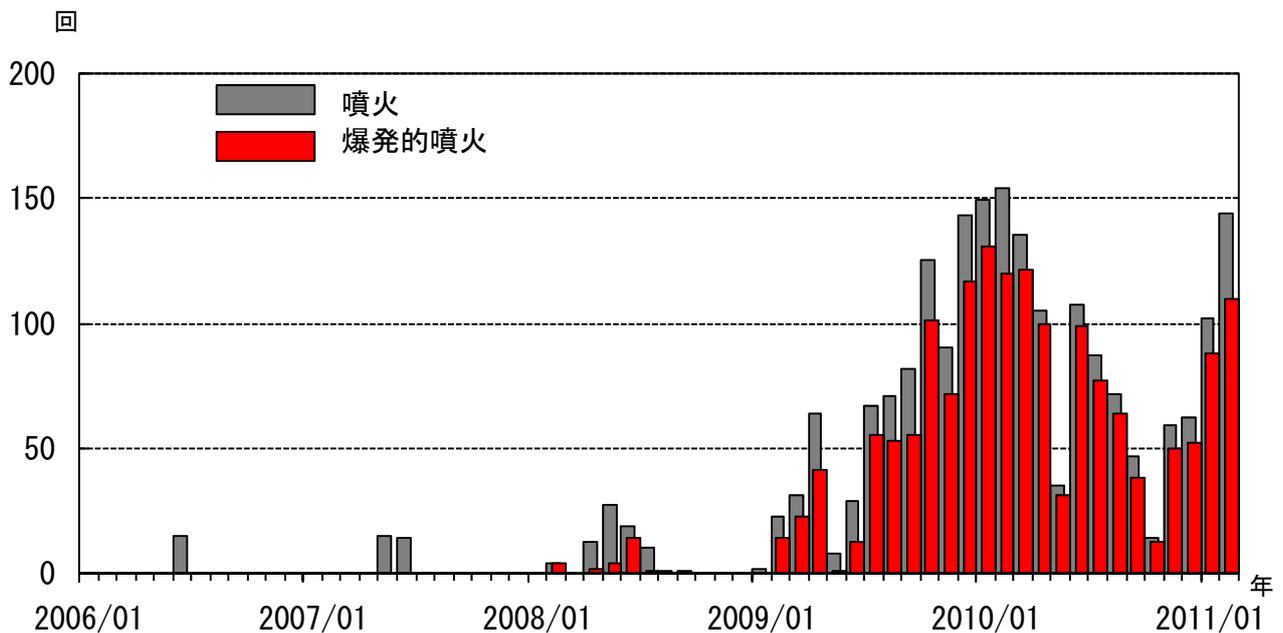


図3 桜島 昭和火口月別噴火回数（灰色）と昭和火口月別爆発回数（赤色）  
（2006年1月～2011年2月）

昭和火口では、爆発的噴火を含む噴火が1月中旬から増加し、活発な状態で経過しました。

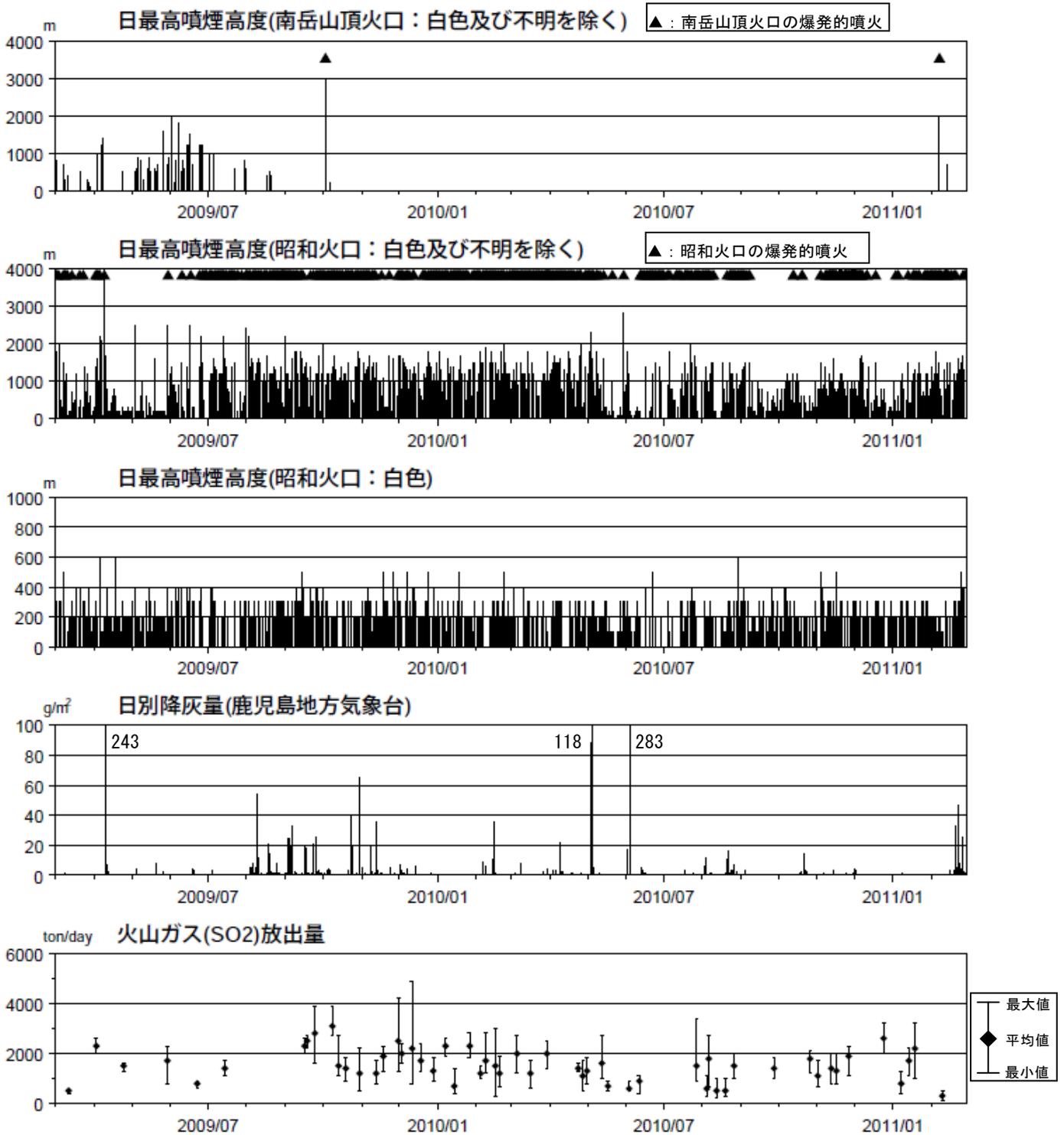


図 4 桜島 最近 2 年間の噴煙、降灰、火山ガス（2009 年 3 月～2011 年 2 月）

< 2 月の状況 >

- ・昭和火口では、爆発的噴火が 110 回発生しました。
- ・南岳山頂火口では、爆発的噴火が 2 回発生しました。
- ・鹿児島地方気象台における観測では、月合計 131g/m<sup>2</sup> の降灰を観測しました。
- ・二酸化硫黄の放出量は、少ない状態でした。

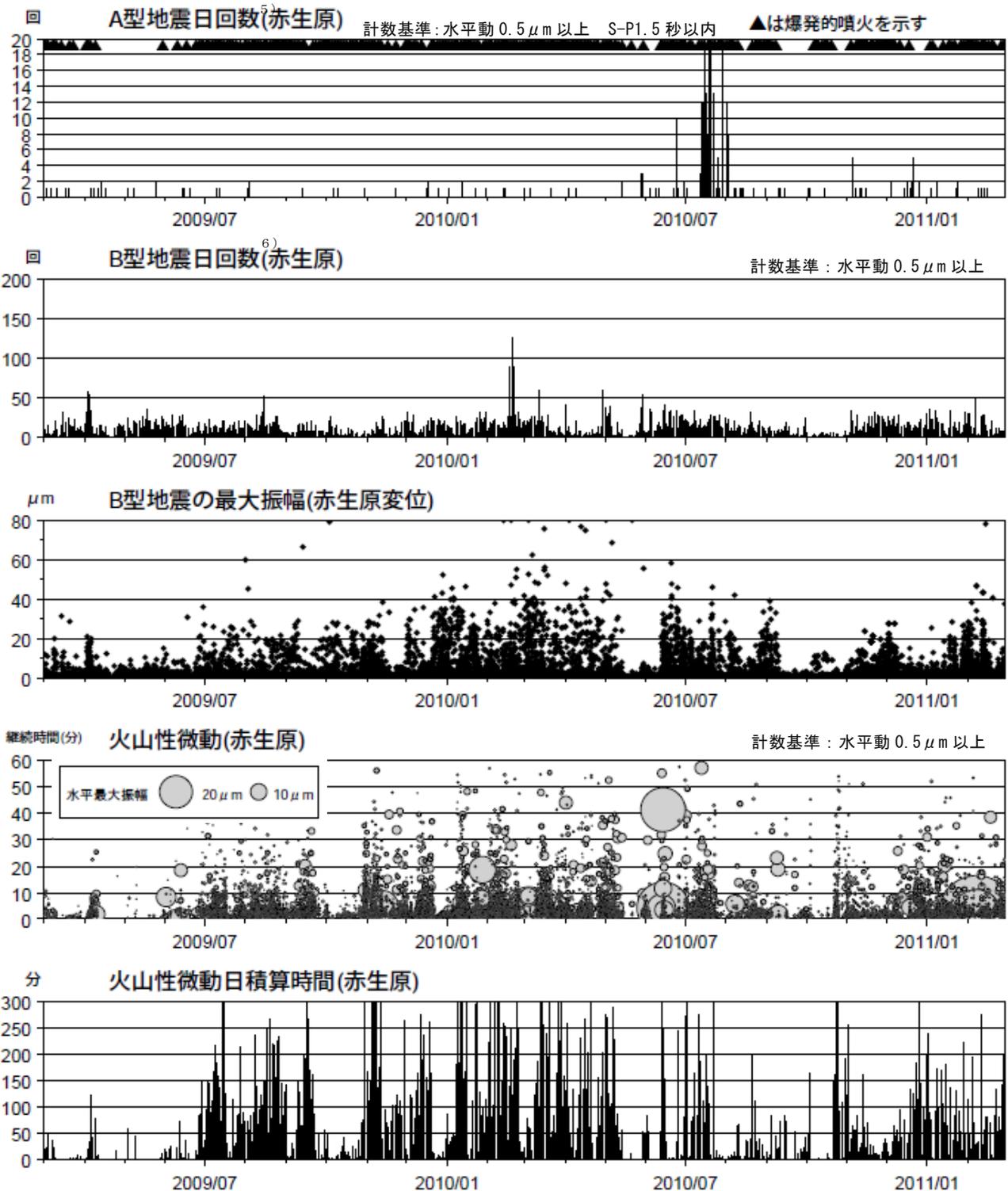


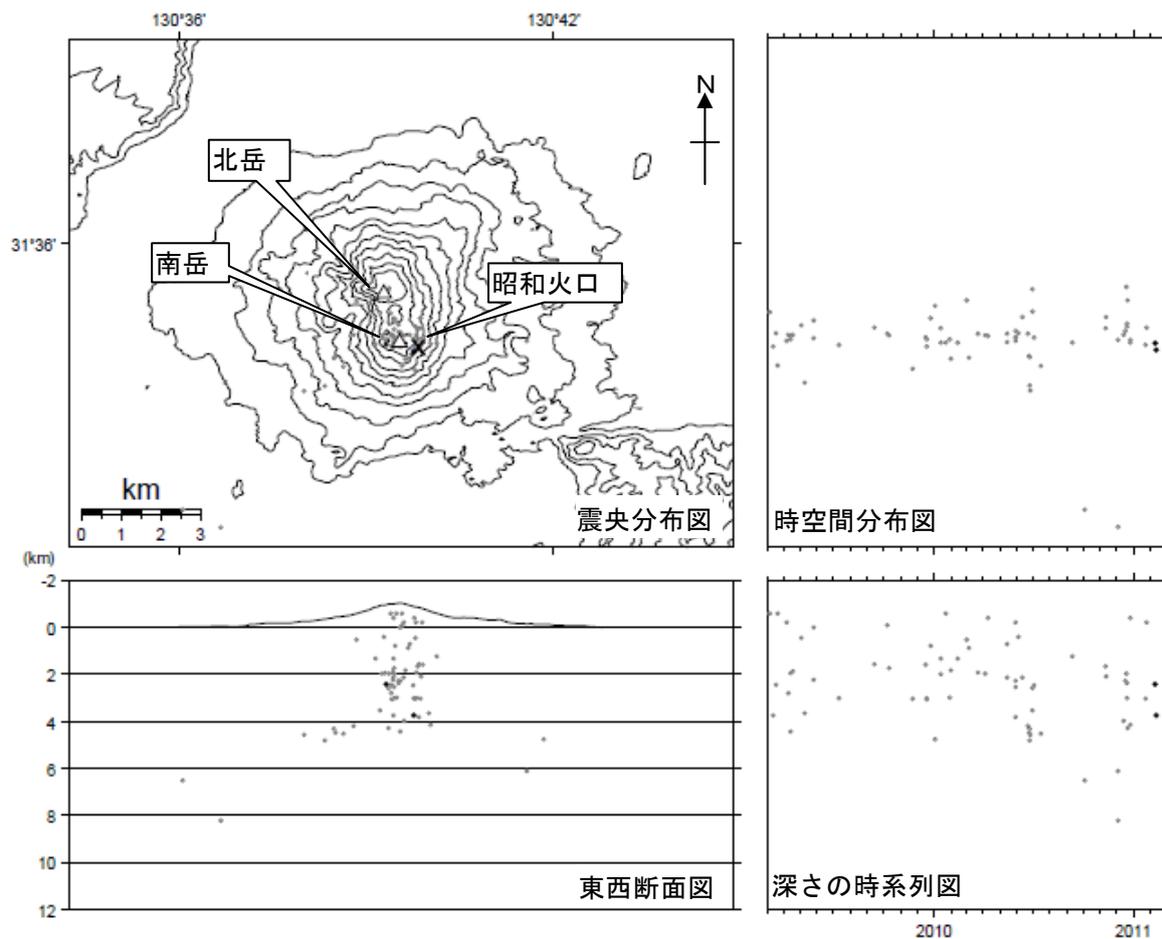
図5 桜島 最近2年間の火山性地震、火山性微動（2009年3月～2011年2月）

< 2月の状況 >

- ・火山性地震は、少ない状態で経過しました。
- ・噴火に伴う火山性微動を観測しました。

5) 火山性地震のうち、P波、S波の相が明瞭で比較的周期の短い地震で一般的に起こる地震と同様、地殻の破壊によって発生していると考えられ、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩石破壊によって発生していることが知られています。

6) 火山性地震のうち、相が不明瞭で、比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震で、火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられています。



● : 2010 年 2 月の震源  
 ○ : 2009 年 3 月～2011 年 1 月の震源  
 図 6※ 桜島 震源分布図（2009 年 3 月～2011 年 2 月）

< 2 月の状況 >

震源は南岳直下の深さ約 2～4 km に分布しました。

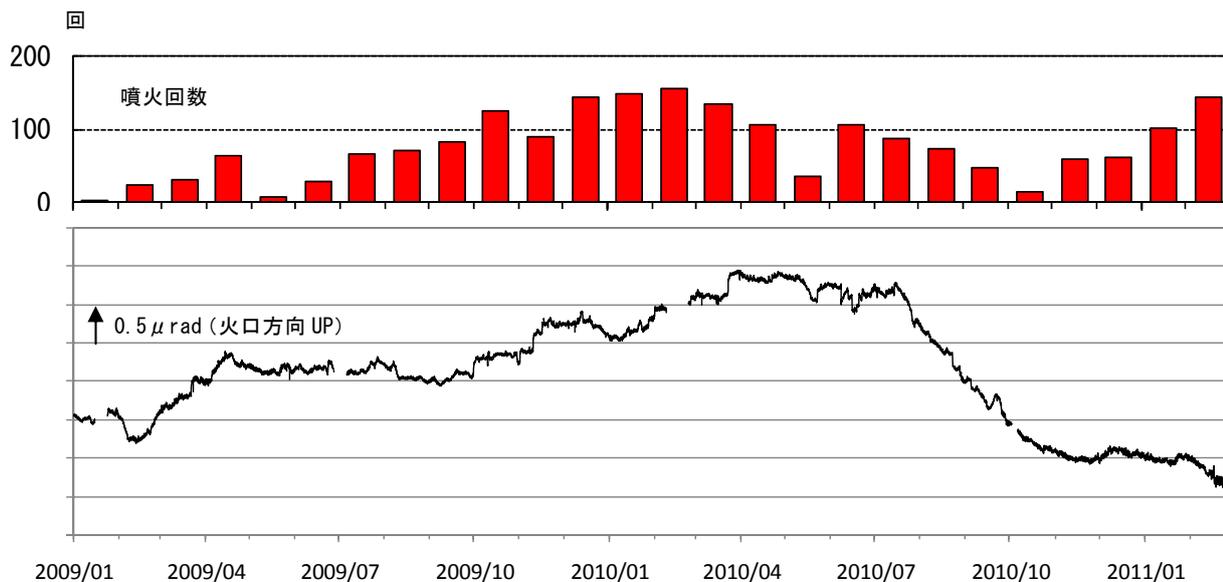


図 7※ 桜島 有村観測坑道の水管傾斜計の変化（2009 年 1 月～2011 年 2 月）  
 < 2 月の状況 >

2010 年 7 月頃からみられた山体の沈降傾向は 2010 年 11 月下旬以降停滞していましたが、2 月上旬から再び火山灰の放出量が多くなり沈降傾向となっています。

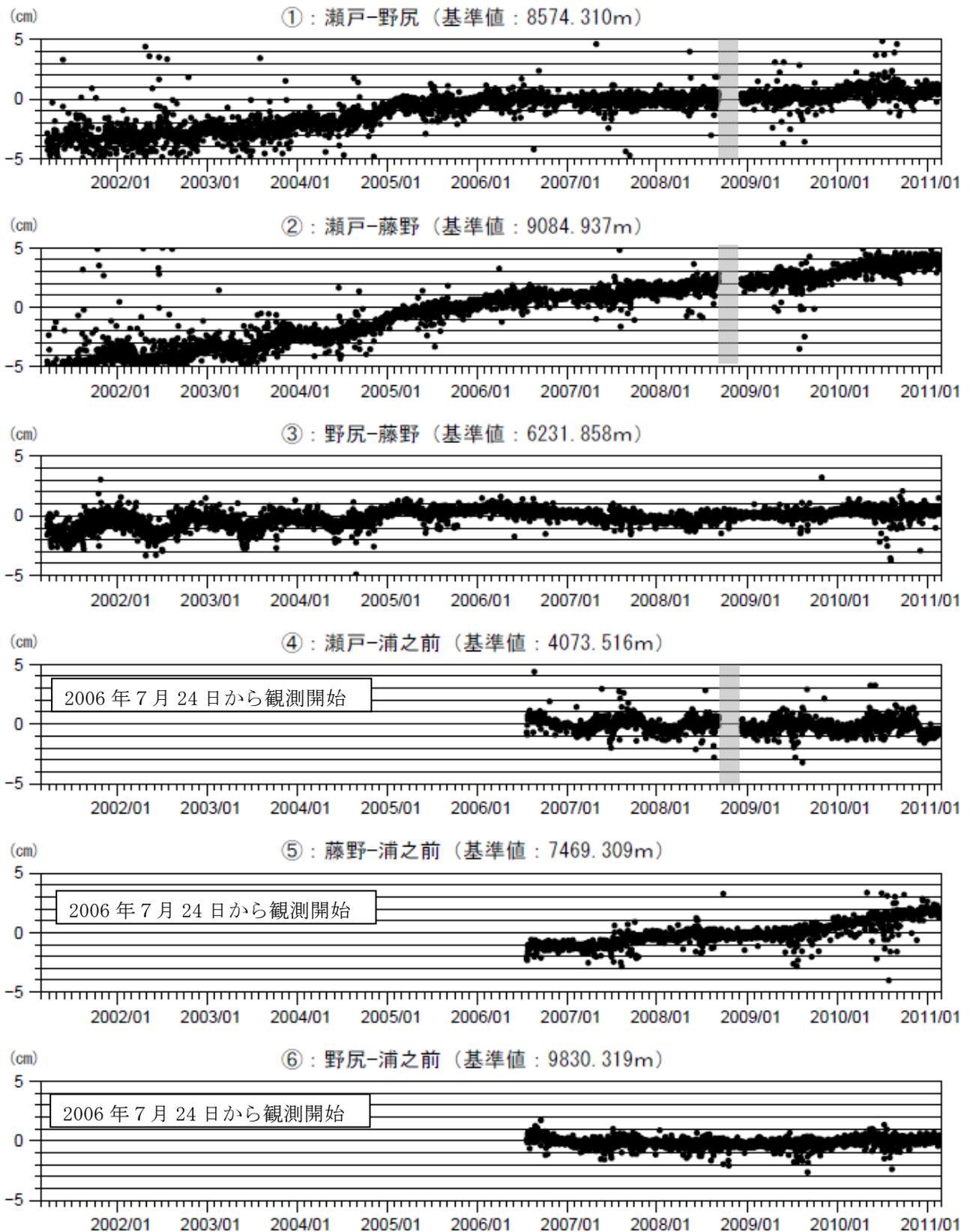


図 8 桜島 GPS 連続観測による長期の基線長変化（2001 年 3 月～2011 年 2 月）  
桜島島内で火山活動に起因する特段の変化はありませんでした。

桜島島内の 4 観測点の基線による観測を行っています。

この基線は図 9 の①～⑥に対応しています。

\* 灰色の部分は機器障害のため欠測を示しています。

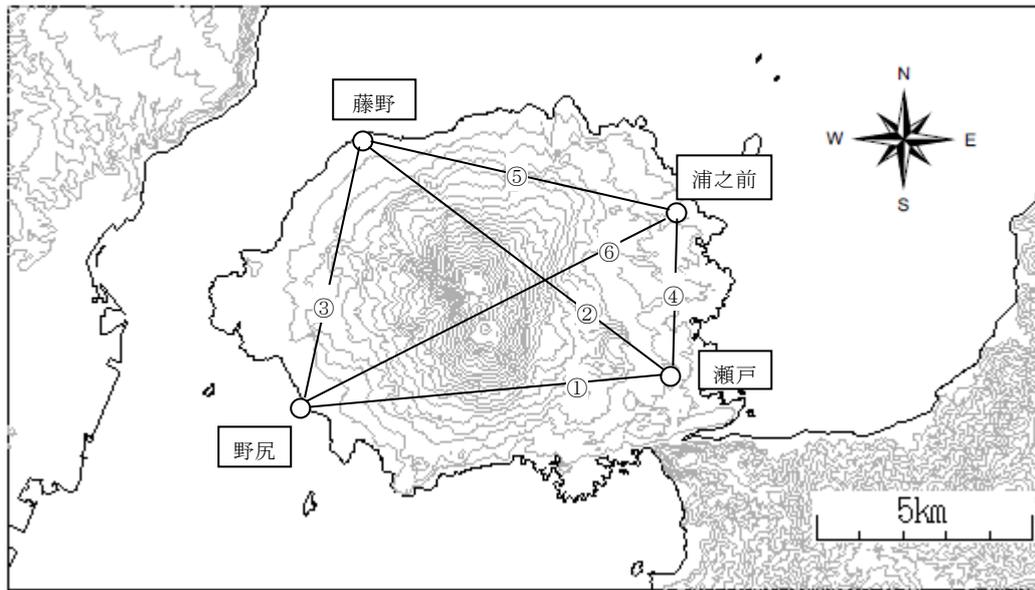


図 9 桜島 GPS 連続観測点と基線番号

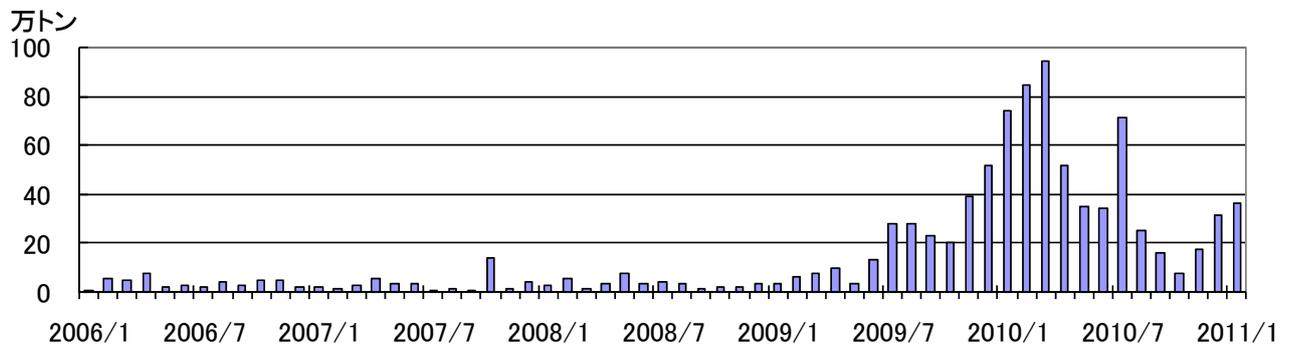


図 10※ 桜島 鹿児島県が実施している降灰量観測による月別降灰量  
(2006 年 1 月～2011 年 1 月)

1 月の降灰量は 36 万トンとやや増加しました。

\*鹿児島県の降灰観測データをもとに鹿児島地方気象台で解析して作成。

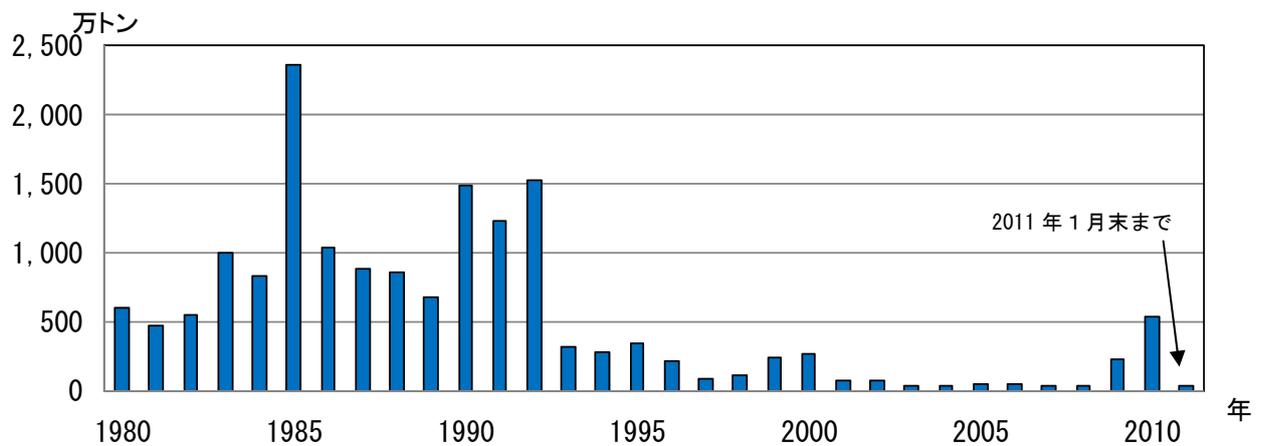


図 11※ 桜島 鹿児島県が実施している降灰量観測による年別降灰量  
(1980 年～2011 年)

\*鹿児島県の降灰観測データをもとに鹿児島地方気象台で解析して作成。

表 1 桜島 最近 1 年間の月別噴火回数（2010 年 3 月～2011 年 2 月）

2010～2011 年		3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
山頂	噴火回数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
火口	爆発的噴火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
昭和	噴火回数	135	105	35	107	87	72	47	14	59	62	102	142
火口	爆発的噴火	121	100	31	99	77	64	38	13	50	52	88	108

表 2 桜島 最近 1 年間の月別地震・微動回数（赤生原：2010 年 3 月～2011 年 2 月）

2010～2011 年	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
地震回数	606	400	426	741	909	491	278	109	545	560	585	510
微動回数	1096	616	424	250	476	235	128	257	331	393	537	445

表 3 桜島 最近 1 年間の鹿児島地方気象台での月別降灰量と降灰日数（2010 年 3 月～2011 年 2 月）

2010～2011 年	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
降灰量 (g/m <sup>2</sup> )	15	34	212	310	4	66	11	24	6	7	1	131
降灰日数	6	11	6	8	3	16	3	8	5	3	2	10